



SPDCAサイクルを活用した 農地集約化支援の工程管理

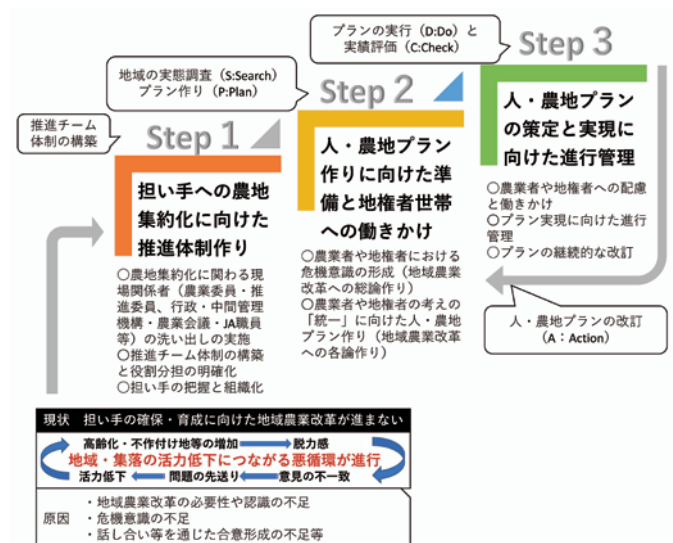
生産基盤研究領域
安江 紘幸 (やすえ ひろゆき)

地域農業を維持する上で必要な 農地の集約化

高齢化や後継者不足が急速に進む中で地域農業を維持するためには、担い手が農作業を効率的に行えるよう農地をまとめることが大切です。しかし、多くの農地は、細かくあちこちに分散しているため、移動に多くの時間を要する（たとえばある大規模経営では移動時間だけで、作業時間の10～15%を占めています）などの問題が発生しています。また、こうした状況下では、機械の利用が制約されることや水管理・畦畔管理作業の粗放化等を招くことが問題となります。そのため、農地の借り受けを希望する担い手の確保・育成を進め、そこへ農地を集約化していく体制を構築することは、地域農業を維持する上で重要です。

農地集約化を支援するための ガイドブック

そこで農研機構では、農業関係機関の担当者が担い手への農地集約化（面的にまとまって担い手が利用できる状態）に向けて話し合いを円滑に進めるための手順書として、「農地集約化支援ガイドブック2020年版」を作成しました（図）。具体的には、①体制づくり、②プラン作り、③進行管理といった3つのステップごとに、担当者が行うべき支援の内容や留意点を解説しています。まず、ステップ1では、地域の状況に応じた推進チーム体制作りに取り組みます。併せて、担い手の現状把握とその組織化を図ります。ステップ2では、推進チームが対象地域の調査・分析（S:Search）を通じて現状を把握し、チーム内で現状認識を共有します。推進チームは、プラン作りに向けて準備すべき項目やそれに基づいた行程表等を整理したうえで、対象地域の農業者や地権者に農地集約化に向けた働きかけを行い、地域の総意となるようプラン作りに取り組みます（P:Plan）。ステップ3では、プラン実現に向けて農業者や地権者の心情に配慮しながら働きかけます（Do）。それと同時にプラン実現に向けて、年度ごとの進行管理を行います（C:Check）。そして、推進チームは、進行管理の結果を元に定期的にプランの改訂を行います（A:Act）。



▲図／「農地集約化支援ガイドブック2020年版」
「人・農地プラン」実現に向けた農地集約化支援の3ステップ

SPDCAサイクルを活用した 工程管理の効果

岩手県滝沢市農業委員会では、ガイドブックで示した手順に基づき、SPDCAサイクルを活用した工程管理を展開しています。その結果、滝沢市農業委員会では、座談会が3倍に増えるとともに、担い手への農地集積が新規に増加して、遊休農地の解消に繋がるなどの効果を挙げています。現在、日本各地では、地域農業の将来を話し合う座談会が実施されています。その中で、本ガイドブックで提示したSPDCAサイクルを活用した工程管理を適用することで農地集約化支援を効果的に展開することが期待できます。

以上の情報の詳細は次の技術情報をご参照下さい。
 農地集約化支援ガイドブック2020年版
http://fmrp.dc.affrc.go.jp/publish/farmland/support_farmland_consolidation_20/
 農地集約化支援ガイドブック2020年（簡略版）
http://fmrp.dc.affrc.go.jp/download/dl_files/support_farmland_consolidation_20_1.pdf